

一、大阪府膳氏

1 戸外保育に重きを置き筋肉の發達を計ること

2 自然に接して自然を學習し、自然物を玩弄せしむる方法を採ること

3 騒しき周圍を避け心地よき境遇中無邪氣に思ふままに活動せしむること

4 女らしき事にのみ傾かず随分と思ひ切りたる遊戯も獎勵してやること

5 室内は採光通氣に注意し酸素の供給を出來得る限り十分にすること

6 繪本類の觀察を制限し又過度に神經を興奮せしむる如き談話遊戯を嚴禁すること

7 幼兒の自然的睡眠時間を少しも減縮する事なく十分睡眠時間を與ふること、家庭にも

注意す

神戸保育會長閉會の辭

(をばり)

第二十四回京坂神聯合保育會
提出遊嬉ノ歌曲 (大正六年六月)

遊 嬉

○竹 藪

		竹				藪							
		ニ 調		ニ 拍		子							
3	3	5	5	6	6	5	6	i	i	7	6	5	0
タ	カ	イ	イ	オ	キ	イ	イ	マ	ツ	ス	ケ	ナ	—
6	6	i	i	5	5	3	3	5	5	3	1	2	0
タ	ケ	ガ	ガ	イ	ツ	パ	イ	ハ	エ	テ	イ	ル	—
(1)	1	2	3	5	5	3	5	6	6	5	5	i	0
ス	ハ	メ	ハ	—	—	—	—	カ	—	—	—	ヤ	—
i	i	7	6	5	5	3	5	6	5	3	2	1	0
ニ	イ	サ	ン	ネ	—	—	—	ア	カ	チ	ヤ	ト	—

(一) 高い大きい
まつすぐな
竹が一ぱい
はえて居る
雀は父さん
母さんやに
いさんねー
さん赤ちや
んと

(二) 毎日こゝに
とまつてち
ゆうくち
うゆとない

てゐる竹は雀と仲よしでよそに行くなといひま

する

(三)風の吹かないぬくい日に雀はわすれてとび出してお山で遊んでゐるうちに大きい鳥におはれた

(四)雀のお宿はるすのまにねどこの下から竹の子がいくつもくならんでニヨキくくとはえました

一、全員圓ヲ相接シテツクリ一人其中央ニ出テ八筋ノタスキチ用
意シテ持ツタスキハ圓ノ中央ニ据エ置ク

二、中央ニアリシ一人ハ歌ニ合セテ周圍ノ子供一人くニ手ヲ觸
レテ廻リ四小節目ニ當ル人ヲ中央ニ出ダス

高い大きいまつすぎな 一人

竹が一ぱいはえてゐる 一人

中略

よそに行くなといひまする 一人以上八人

三、歌ノ切目ニ當リタル人ハ中ニ入り中央ノタスキヲ取りテ肩ニ
掛ル

四、第三ノ歌雀ハ忘レテノ時ニ中ノ者皆出テ行キ隠クレル圓ノ者

ハ始メノ一人ト共ニ歌ニ合セテ廻リお山で飛ぶヨリ逆ニ戻リ

大きい鳥ヨリハ急ギ足ニ廻ル(其間ニ八人隠レ終ル)歌終リテ

全體ニテ探シニ行ク連レ歸ル

タスキチ掛ケタルモノ中央ニカカム

五、雀のお宿はるすのまに(周圍ノ者ハ中央ニ集リテ拍手)

れどこの下から竹の子が(兩手ヲツナギ外側ニ開ク)

いくつもくならんで(開キタルマ、右ノ方ニ廻ル)

中央タスキチ掛ケタル者ハ第四ノ歌ニテ筈ト早變リシタルナ
リ

ニヨキくくノ歌ニテ筈ハ一人く立チ上ル歌終リタル時
一本二本三本ト數へ八本ニ至リテ終ル

○子供遊び

(一)太郎さんく旗たて、君はどちらへ行きますか

兵隊ごとするのにお連れがあるのでこれからみ

んなを呼びに行く

(二)花ちゃんく人形だいてあなたはどちらへ行き

ますか人形ごとするのにお連れがあるのでこれ

からみんなをよびに行く

一、男子一人旗ヲ立テタル真似シテ圓ノ中チ歌ニ合セテ歩ム歌ノ

中ノ太郎ハ其ノ子供ノ姓又ハ名チ用フル方ヨロシカルベシ

二、周圍ノ圓ハ立ツトモ座ストモ隨意ナルベシ

子供遊び

子				拍				子											
へ				調				子											
5	5	3		2	2	1		2	2	1	2		3	•	0				
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
タ	ロ	サン	—	タ	ロ	サン	—	ハ	タ	タ	テ	テ	テ	テ	テ				
5	5	3	3		2	2	1	2		3	3	2	5		1	•	0		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
キ	ミ	ハー	—	ド	チ	ラ	ヘ	ユ	キ	マ	ス	カ	カ	カ	カ				
2	2	2	2		3	2	1	2		3	3	6	6		5	5	3	3	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
ヘ	イ	タイ	ゴト	ス	ル	ノ	ニ	オ	ツ	レ	ガ	イ	ル	ノ	テ				
5	5	3	3		2	2	1	2		3	3	2	5		1	•	0		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
コ	レ	カ	ラ	ミ	ン	ナ	チ	ヨ	ビ	ニ	ユ	ク	ク	ク	ク				

三、(イ)圓ノ者太
 郎さんくヨ
 リ行きますか
 マテチ歌フ
 (ロ)中央ノ一
 人ハ兵隊ごと
 するにヨリ終
 リマテ歌ヒツ
 ツ歩ム歌終ル
 ヤ中央ノ者、
 鐵砲、ラツバ、
 帽子、背囊等
 隨意ニ云フヲ
 相圖ニ周圍ノ

四

者モ其真似ヲ爲ス
 失敬ヲ爲スニ至リテ次ノ女子ニ換ル
 女ノ子モ人形ヲ抱ク様子ヲシテ第一回ノ如ク爲シタル後
 ダツコ、オンブ、ハイ、オチ、チヨウチ等何ニテ
 子供ノ爲ス事ヲ真似タル後失敬ニテ男兒ニ換ル

唱歌

○お米

お米

子				拍				子										
へ				調				子										
5	1	1		2	2	3	3		5	3	2	1		2	•	0		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
モ	ミ	チ	—	タ	ク	サン	—	エ	リ	ア	ケ	テ	テ	テ	テ			
3	3	5	5		3	2	1	1		2	3	2	2		1	•	0	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
ナ	ヲ	シ	ロ	ツ	ク	リ	—	マ	イ	タ	タ	ネ	ネ	ネ	ネ			
5	5	5	5		3	2	1	2		3	3	6	6		5	•	0	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
ア	メ	フ	リ	ヒ	—	テ	リ	ダ	ン	ダ	ン	ト	ト	ト	ト			
5	5	6	6		3	3	5	—		2	1	3	2		1	•	0	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
ハ	ク	シ	チ	ス	—	—	ニ	ノ	ビ	テ	キ	タ	タ	タ	タ			

(一)もみを澤山えりわけて苗代つくり蒔いたたね雨
 降り日でりだんくくと六七寸にのびてきた
 (二)のびた苗をばぬき取りてとうさんもかあさんね
 ーさんも箕きて笠きていそくとやがてきれい
 にうえつけ

(三)つよい暑さを
 苦にもせず
 草がはえ
 たと草をと
 り水が足ら
 んと水を入
 るあゝいそ
 がしいお百
 姓

(四) あちらやこちららの田の中に案山子や鳴子をこしらへてちうくくとよつてくる穂をつむ雀お

うてやる

(五) みのりしいねを刈りとりてもみを残らずこきわけてお米になつたら俵にしエンヤラ運ぶたのしさよ

(一) もみを澤山えりわけて

(圓形ヲ作リ左ノ手ニモミヲ入レタル形右ノ手ニテ之ヲエリヲケル)

苗代つくりまいた種 (兩手ニテ苗代ノ形及種マク形)

雨ふり日でりだんぐと (兩手ニテ雨ノフル形兩手ニテ大陽ノ形ヲナス)

六七寸にのびてきた (兩手ニテ苗ノ一寸ヨリ六七寸マデノビル形ヲナス)

(二) のびた苗をばぬきとりて (苗チマク形)

とうさんもかあさんもねいさんも簀きて笠きていそいと

(簀ト笠ヲ著ル形)

やがてきれいに植ゑつけた (苗ヲ植エル形ヲナシツゝ横ニ行

進)

(三) つよい暑を苦にもせず

草がはへたと草をと (草ヲトル形ヲナシツゝ中心ニ入ル)

水が足らぬと水を入る (兩手ヲ握ギリテ上ニノバシ水車ヲ動かス形ヲナシツゝ本ノ位置ニカヘル)

あゝいそがしいお百姓 (拍子)

(四) あちらやこちららの田の中に (右向ケヲナシ其ノマ、アチラヤコチヲト指ザシス)

案山子や鳴子をこしらへて (兩手ヲ左右ニノバシ案山子ノ形

兩手ヲ垂レテフリ鳴子ノ形)

ちうくくとよつてくる (兩手左右ニヒライテ雀ノ形)

穂を つ む 雀 (左手ノ手首ダケヲサゲテ穂トナシ右ノ手ニテ之ヲ食スル形ヲナス)

お う て や る (細カク拍手)

(五) みのりしいねを刈りとりて (兩手ノ手首ヲサゲ稲ノ形ヲナシ左ノ手ニイネヲ持チ右

手ニテ刈ル形)

もみをのこらすこきわけて (兩手ニテ稻ヲコク形)

お米になつたら俵にし (俵ノ形ヲナス)

エンヤラ運ぶたのしさよ (俵ヲカツク形ヲナス)

(此唱歌ハ數年前ノ作ナレド各地ヨリ歌譜ヲ要求セラルコト多キヲ以テ遊戯提出ノ序ニ之ヲ記ス)

神戸市保育會